

令和5年度

# 授業改善推進プラン

1. 学力向上を図るための全体計画（様式1）

2. 授業改善推進プラン

課題分析と授業改善策

練馬区立練馬東中学校

〈東京都教育目標〉

子供たちが、知性、感性、道徳心や体力をはぐくみ、人間性豊かに成長することを願う。

〈練馬区教育目標〉

学校教育と社会教育との緊密な連携のもとに、人間尊重の精神を尊び、心身ともに健康・安全で知性と感性に富み、広く国際社会において信頼と尊敬が得られる人間性豊かな子供の育成を図る。

〈学校教育目標〉

人間尊重の精神をふまえ、世界の平和と人類の幸福を考え、行動することのできる人間の育成を目指し、次のような資質・能力を育てる。

- 1 心豊かな人
- 2 健康な人
- 3 考える人
- 4 共に生きる人

〈学校・地域の実態〉

生徒は明るく素直であり、元気な挨拶ができ、特別活動や体験学習に積極的に取り組む。家庭や地域は学校に協力的である。

〈目指す学校像〉

- 夢や目標に向かってあきらめずに『努力』する生徒の育成
- 仲間や周りの人に『感謝』の気持ちを常にもつ生徒の育成
- 練馬東中に関わる全ての人が『チーム練東』として生徒の育成のために力を結集する

〈学校経営方針〉

毎日の授業の充実を基本とし、学力の定着・向上を図り、タブレットやICT機器を活用した魅力あふれる質の高い授業や生徒が主体となって対話し考える授業を目指す。

〈各教科の指導の重点〉

タブレットやICT機器を活用し、生徒が主体的・対話的に学べる学習環境を作る。

ガイドラインに沿った習熟度別少人数指導を行い、指導方法・形態を工夫する。

生徒による授業評価を基に、指導と評価の一体化を目指す。

〈総合的な学習の時間の指導の重点〉

ガイダンスを重視し、啓発的な体験学習を通して社会と関わり、知識や技能と生活を結び付け、課題解決能力を育成する。

〈キャリア教育の指導の重点〉

体系的系統的な進路指導の充実を図り、多様な進路の選択肢を十分に理解させて、正しい勤労観・職業観を育成する。

〈本校における「確かな学力」の捉え方〉

態度・知識・思考力・判断力・表現力からなる各教科、領域における本質的な能力（学力）であり、生きる力のもとになる力。

〈「確かな学力」を身に付ける段階〉

1. 理解的学力  
→基礎知識、課題認識能力
2. 態度的能力  
→自ら意欲的に取り組む能力
3. 技能的学力  
→情報の収集・整理、表現能力
4. 思考的学力  
→課題解決方法の探究能力

〈道徳教育の指導の重点〉

「人にやさしく」を意識させ、思いやる心を育み、いじめの未然防止、早期解決を図る。

道徳・学級活動の時間を柱として、差別や偏見をなくし、人権感覚を養うとともに他人との違いを認める心を育てる。

〈特別活動の指導の重点〉

学級活動、学校行事、生徒会活動、部活動を通して、社会性や協調性を育て、健全育成を図る。

〈生活指導の重点〉

礼儀・挨拶・時間前行動を徹底させ、教職員と生徒・保護者の信頼関係を構築するために「言葉」を大切にす。

スクールカウンセラー、学校生活支援員等との連携を強化し、個別に支援を要する生徒の指導を充実する。

本校の授業改善に向けた視点

指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫	小中一貫教育の視点
<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査の分析</li> <li>・観点別学習状況の評価分析</li> <li>・上記資料による学習状況・学習実態の把握やアンケートの実施</li> <li>・分析結果を反映させた授業改善推進プランの実施</li> <li>・授業のねらいや目標の明確化</li> <li>・主体的に学習に取り組む態度を育成するための指導法の改善や各教科での言語活動の充実</li> <li>・ICT機器を活用した生徒への適切な指導・助言</li> <li>・不登校生徒に対する登校への声掛けと、受け入れ態勢の用意</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数学科、英語科における習熟度別少人数授業の実施</li> <li>・学期ごとに習熟度少人数授業の編成および組み合わせ変更</li> <li>・行事の精選と縮小</li> <li>・朝読書の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業改善推進プランの検証を踏まえた研究授業の推進</li> <li>・学期ごとにおける適切な評価評定の在り方や指導との一体化</li> <li>・ICT機器など各種機器を活用した授業の研修</li> <li>・新学習指導要領に合わせた指導計画の検証、改善</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日の授業における観点別学習状況把握のための資料収集</li> <li>・生徒による自己評価表（個人内評価と反省）の導入とその充実</li> <li>・適切な評価評定の在り方の検証、改善</li> <li>・新学習指導要領における評価の検証、改善</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域コーディネーターを通して地域社会との連携を強化し、学校教育への積極的参加の推進</li> <li>・学校関係者評価を十分に活用し、地域社会と学校が一体となった教育の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中一貫を踏まえ、学習面のみならず生活面における支援の推進（中1）</li> <li>・レディネステストの実施と分析</li> <li>・小中が互いの特性を生かした乗り入れ授業などの工夫の推進</li> <li>・校区別協議会で「目指す15歳の姿」に向けて3分科会7グループにおける研究の推進と充実</li> <li>・課題改善カリキュラムの作成と改善</li> </ul>

授業改善策の検証方法

- ・管理職や主幹教諭による授業観察や校内研究授業を行い、授業改善策の成果を各教員にフィードバックする。
- ・学期ごとに教科部会を実施し、内容別・観点別の分析を行い、授業改善策の成果と課題を検証し、次年度の計画に取り入れる。

## 令和5年度 授業改善推進プラン(課題分析と授業改善策)

		指導方法の課題分析	具体的な授業改善策
国 語	一 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>多くの生徒が意欲的に取り組んでいる。</li> <li>漢字は80%の正答率を出せるよう漢字テストを実施している。</li> <li>音読をすることだけに集中せず、内容を捉えられるようにする必要がある。</li> <li>ワークにある一問一答の解答に慣れており、文を組み立てて解答することが苦手な生徒がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章を書く場面で、漢字を使うことを意識させる。分からない漢字をそのままにせず、辞書等を使用させ、指導していく。</li> <li>音読をしながら、授業の中心となる文にサイドラインを引かせ内容理解を深める。</li> <li>問いに対しての答え方を学び、適切な答え方を身に付けさせる。</li> <li>単元のまとめとして筆者の意見を適切に読み取り、それに対する自分の意見を書く機会を多く設ける。</li> </ul>
	二 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>ほとんどの生徒が意欲的に授業に取り組んでいる。</li> <li>漢字は80%の正答率を出せるよう小テストを実施している。</li> <li>長文の読解に苦手意識を感じている生徒が多く、その原因として言葉の意味を正しく理解できていないことが考えられる。</li> <li>主題やそれに対する自分の意見を文章で表現することについては1人で考えられない、正解を意識しすぎて感情を表現できないなど、個人差が大きい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字は決められた範囲では正解できるが日常生活で正しく使いこなせるよう「書く」機会があるたびに指導していく。</li> <li>ポイントとなる文を見付け、サイドラインを引かせながら、書かれている内容をだまかに捉えさせる。その際、どういう意味でこの言葉が使われているのかを考えさせ、語彙力を高める。</li> <li>読解ドリルを活用し、初見の文章を自分で読み取る機会を増やしていく。その際、答え方のトレーニングも実施する。</li> <li>単元のまとめとして主題や筆者の主張を整理し、それに対する自分の意見を書く機会を多く設ける。</li> </ul>
	三 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>ほとんどの生徒が意欲的に授業に取り組んでいる。特に漢字は継続して取り組んだ成果があり、8割以上の生徒が80%の正答率を出している。</li> <li>自力で長文の内容を正確に読み取ることができない生徒もいるので、一人で読み、理解できるようトレーニングをしていく必要がある。</li> <li>自分の意見を表現することにおいては個人差が大きいので取り組みやすい題材を用意していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字は決められた範囲では正解できるが日常生活で正しく使いこなせるよう「書く」機会があるたびに指導していく。</li> <li>読むスピードをアップし、要旨を把握させるために新聞記事や問題集から長文を取り出し沢山読ませる。特に複数の資料からの読み取りを強化し、内容についての問題意識をもたせる。</li> <li>抽象的課題や社会的課題を提示し、考えるトレーニングの機会をもつ。</li> <li>自分の考えを言語化するために必要な語彙を身に付けるためこまめに添削を行う。また、発言を求めていく授業を展開する。</li> </ul>

		指導方法の課題分析	具体的な授業改善策
社 会	一 年	<p><b>【地理・歴史】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 興味、関心の度合いが生徒間格差についての課題がある。</li> <li>・ ノートや考査の筆記状況から、総じて重要語句等を漢字で正確に書く力「書字能力」の低下についての課題がある。</li> </ul>	<p><b>【地理・歴史】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習事項に関連する事象を身近に感じさせ、より興味、関心を持てるような資料及び教材開発を心掛ける。</li> <li>・ 毎授業時の確認テストで単元ごとの重要語句等の確実な書字習得を目指す。</li> <li>・ 単元の終わりに、ポートフォリオを実施し、学習への理解を深める。</li> </ul>
	二 年	<p><b>【地理・歴史】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基礎的、基本的な知識を習得できるよう、毎時間前時の復習を入れている。ただ、定着度が悪い生徒が一定数いる。写真や絵に興味をもっている生徒が多いが、気付いたことを発表できる生徒は少ない。</li> <li>・ 授業で学んだ知識を表現できるよう、情報を整理し自分の意見を入れて記述する機会を増やしていく。</li> </ul>	<p><b>【地理・歴史】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基礎、基本的な知識を習得し定着できるよう単元の終わりに、確認テストを実施している。</li> <li>・ 授業で示す資料（絵や写真、グラフ等）を精選し、パワーポイント等を使って段階的にヒントを与え、考察できるようにする。</li> <li>・ 単元の終わりに学習内容のまとめとして、ポートフォリオ課題を提示し、学習したことに対し、考えを深められるような機会を設ける。</li> </ul>
	三 年	<p><b>【歴史・公民】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基礎的、基本的な知識を習得できるよう、毎時間前時の復習を入れている。ただ、口頭で答えることはできても、記述できない生徒が一定数いる。</li> <li>・ 複数の写真やグラフを読み取り、気付いた点や変化した点を記述することができる。ただ、その変化の背景となる事象にまで考えの及ばない生徒が一定数いる。</li> <li>・ 授業で学んだ知識を表現できるよう、情報を整理し自分の意見を入れて記述する機会を継続していく。</li> </ul>	<p><b>【歴史・公民】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基礎的、基本的な知識を習得し定着できるよう単元の終わりに、簡単な小テストを入れたり、問題演習を入れたりして、授業で得た知識をアウトプットできるようにしている。</li> <li>・ 授業で示す資料（絵や写真、グラフ等）を精選し、パワーポイント等を使って段階的にヒントを与え、考察できるようにする。また、知識と知識が関連付けられるように普段から「つながり」を意識した授業づくりを心掛ける。</li> <li>・ 単元の終わりに、授業内容の振り返りや学習内容のまとめとしてポートフォリオ課題を提示し、これまでの学習内容に対し、考えを深められるような機会を設ける。</li> </ul>

		課題分析	授業改善策
数 学	一 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学校段階での学習内容の理解に差が見られ、基礎基本の定着に個人差がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元ごとに小テストを行い、基礎基本の定着、途中式や過程の大切さを学ばせる。 レポートの課題を通して考えたことや、調べたことを表現する課題を行う。</li> <li>習熟度別のコースに応じて、発展的な内容や基礎的な内容を生徒の実態に応じて、拡充していく。 デジタル教材やeライブラリを活用し、場面や単元に応じて指導に使用する。</li> </ul>
	二 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年時の学習内容の定着度に差が見られ、二極化の傾向が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元ごとに小テストを行い、基礎基本の定着度を確認し、定着度に応じた習熟度別指導を継続する。 定着度の低い生徒については、授業内容や教材の工夫だけでなく、状況に応じて個別に学習支援を行う。</li> <li>また、十分な定着度を示す生徒には、より発展的な内容を取り入れた学習指導を行う。</li> </ul>
	三 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>コース別の利点を生かすために、それぞれの学習課題に対応した授業を進める。</li> <li>苦手意識や関心意欲がもてず、自ら学習の進捗を妨げているケースが見られる。</li> <li>ワークやプリント等により、考え方や解き方などの工夫を紹介し、幅広い思考を助けていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コースに応じた学習目標に合わせて、問題集やプリントを活用し、より基礎的な内容、より発展的な内容を補充しながら授業を進める。</li> <li>授業で扱う教材の工夫だけでなく、個別に指導を行い、苦手意識の克服を図り学習への意欲の向上を目指す。</li> <li>既習事項を利用した日常生活に潜んだ数学や、更に解決したい問題や興味関心のある内容を取り入れて、幅広い思考ができるように指導する。</li> </ul>

		課題分析	授業改善策
理科	一年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業態度が良く、発言も多いが、小テストや定期考査の結果から、学習内容の定着が不十分であると考えられる。</li> <li>・実験・観察に対しての取組は積極的であるが、考察することが苦手である。</li> <li>・数的処理が苦手であり、計算等が必要な考察や課題についての取組は苦手な生徒が多い。</li> <li>・与えられた課題は行うが、積極的に探究することが苦手である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小テストで確認を行いながら、授業での復習や宿題などで学習内容の定着を図る。</li> <li>・考察に関する例や考え方を実験時やまとめで示し、考え方を身に付けるよう促す。</li> <li>・理科に必要な計算の練習を授業で時間をかけて行い、必要に応じて個別の課題で対応する。</li> <li>・振り返りカードを活用し、主体的に学習に取り組む態度の育成を図る。</li> </ul>
	二年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験観察に対しての取組は積極的だが、実験結果を分析することや、考察を記述することを苦手とする生徒が多い。</li> <li>・小テストを実施し、授業の最後に演習の時間を設けているので、基礎基本は定着している生徒が多いが、応用を苦手とする生徒が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事実に基づいて実験結果から考察をすることができるように指導する。定型文を示すことで、考察の書き方を身に付けさせる。</li> <li>・学習した内容が身近な生活にどのように関わっているか、章ごとにまとめる時間を設け主体的に学習に取り組む態度の育成を図る。また、応用問題も適宜取り組ませ、学習した内容をどの場面で活用すればよいか考えさせる。</li> </ul>
	三年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験・観察に対しての取組は積極的だが、実験結果から考察したり記述したりすることを苦手とする生徒が多い。</li> <li>・1、2年生の学習内容の定着が不十分である。特に、数学的な手法を使う分野に対して苦手意識をもっている生徒が多い。</li> <li>・与えられた課題は行うが、積極的に探究することが苦手である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・科学的事象を知識として理解するだけでなく、科学的に思考し考察できるように指導する。</li> <li>・1、2年生の基礎的内容を、教え合いの授業や小テスト、スモールステップの演習等を行うことにより理解を促し、定着を図る。</li> <li>・振り返りカードを活用し、主体的に学習に取り組む態度の育成を図る。</li> </ul>

		課題分析	授業改善策
英語	一年	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業に対して積極的に取り組み、楽しみながら参加している生徒が多い。ただ、一部の生徒は小学校から英語につまずきを感じており、授業に参加しようとしていない姿勢が見られる。</li> <li>アクティビティなど活動を通してのコミュニケーション能力が非常に高い。英語に対して間違いを恐れない姿勢がよく見られる。反対に、みんなの前に立って1人で発表することが苦手なように思える。</li> <li>授業内での毎回の単語テストを通して、基礎・基本の定着を図っている。次の課題はその単語を用いて、自分の言いたいことを表現できるようになることである。</li> <li>教科書の本文を分析しなくても概要を理解することができる生徒が多い。概要だけでなく詳細も読み取ることができるようになる必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業内では、できる生徒にスモールティーチャーとして苦手な生徒に教えてもらう。また、夏期学習教室や質問教室等を通して、苦手な文法等の復習を行う。</li> <li>1人だけで発表することを最終目標として、グループでの発表やペア活動の発表など、少しずつステップアップしていく。また、生徒たちが自信をもって発表することができるよう、授業内で発表の練習の充実を図る。</li> <li>年間を通して単語テストは継続していく。また、英作文を文法の演習問題等を用いて、授業内で扱うことができるよう工夫をする。</li> <li>教科書の読み取りだけでなく、その他の読み物等も用いて読み方のポイントを知る。授業で時間を測りながら要点をつかむ練習も繰り返し行う。</li> </ul>
	二年	<ul style="list-style-type: none"> <li>英語を苦手とする生徒が多く、授業に対して積極的に取り組む生徒が少ない。全体的に文法等の定着を図る必要がある。</li> <li>活動を行うことで英語に親しみをもつことができるようになってきた。ペアワークやグループワークでの活動はとても積極的に取り組めており、発音をすることへの抵抗もなくなってきた。さらに発展的な活動を授業に取り入れる必要がある。</li> <li>発音はできていても書くことができない。ペーパーテストに最も苦手が見受けられる。生徒一人一人の「書くこと」の能力を大幅に向上する必要がある。</li> <li>「読むこと」の能力は教科書程度の英文なら、読むことができるがそれ以上になると難しいと感じる生徒が多い。英文の量だけで諦めてしまうのではなく、日常的に慣れさせることが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が発言できる場面を多く作り、英語に対しての苦手意識をなくしていく。その際、英語でインターアクションをできることを目指す。</li> <li>ALT との授業を効果的に活用し、様々なコミュニケーション活動を積極的に取り入れた授業を展開する。</li> <li>単語テストや单元ごとのテストなどを定期的に行うことで、書くことの練習を多く取り入れる。生徒の間違えそうな問題をピックアップしながら、「書くこと」の時間を今まで以上に取り入れていく。</li> <li>英語新聞を活用したり、アニメの英語版をうまく活用して生徒が親しみをもって英語に取り組めるようにする。課題などを使って、自ら英語の読み物を読むような習慣を付けさせる。</li> </ul>
	三年	<ul style="list-style-type: none"> <li>もっと知りたい、なんでこうなるのだろうと考えながら授業に取り組んでいる生徒が多い。苦手な問題にも、友達と協力しながら取り組もうとする姿勢がよく見られる。ただ、基礎・基本が定着していない生徒も多いため、一人一人の能力を課題等で少しずつ伸ばしていく。</li> <li>発表することに抵抗はないが、2文以上で話すという条件をつけるとその場で話すことが難しい生徒が多い。事前に準備してから発表したり話したりするのではなく、その場で話せる能力を身に付けさせる。</li> <li>書く力を伸ばすため、単語テストなどの書くことのテストを定期的に行う必要がある。また、授業内でもワークシートを効果的に活用し毎回の授業で必ず書く時間をとる必要がある。</li> <li>教科書を読み、英文を理解したり正しく返答したりすることはできる。さらにまとまった長さの英文をより正確に読み取る指導の工夫が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒たちの気付きに目を向け、授業の中で取り上げていくとともに、その気付きを英語で言えるような力を身に付けさせる。毎回の授業でこのやり取りを行えるよう、生徒に定着をさせていく。</li> <li>ALT との授業を効果的に活用し、様々なコミュニケーション活動を積極的に取り入れた授業を展開する。</li> <li>英作文を積極的に取り入れ、意見文も書くことができるよう授業内で指導の工夫をしていく。その際、スペルミス等も確認し正確さを今以上に身に付けさせる。</li> <li>ワークシートを活用し、大まかな内容把握・やや長い英文の内容把握などに繰り返し取り組ませる。</li> </ul>

		指導方法の課題分析	具体的な授業改善策
音 楽	一 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1 学期で合唱をする時間を十分にすることができない。また、年間を通して器楽の授業が少ない。</li> <li>・ 知覚したことと感受したことを分けて聴くことに慣れている生徒が多い。創造力豊かに鑑賞することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 年度当初の授業計画の工夫を行う。また、発声練習の際に短時間でもハーモニーを作る時間を確保する。</li> <li>・ 創造力の豊かさを形式的な文章にして損なわないように、授業の中で気軽に発言し、共有し合えるような場面を設ける。</li> </ul>
	二 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発言はするが、答えを探るような授業になってしまい、感受したものを引き出し豊かな発言につなげることができていない。</li> <li>・ 実技テストを行うことで分かった生徒の課題を基に、発声の方法を細かく指導することはできたため、合唱の指導につなげていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 感受を表す語彙力がなく、感じたことや気付いたことがあってもワークシートに書くことができない生徒が出ないように、語彙の例を集めたシートを用いていく。</li> <li>・ 合唱は1年生で学んだ積み上げを生かし、合唱コンクール前の合唱の時間に、発声方法に関しては全体指導を行い、発達段階に応じて個別指導を適宜行っていく。</li> </ul>
	三 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ どのような授業も前向きに取り組むため活動はできるが、得た知識を自らの力で抽象化し、深い理解につなげることが難しい。</li> <li>・ 合唱の授業に非常に意欲的だが、ただ大きな声で歌うことが目的になっている。より合唱に適した、声種にあった無理のない発声を教えていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発問や例の工夫をする。また、ただワークシートに記入させるだけでなく、話し合い活動を短時間で取り入れ、意見共有をし、知識を深める時間を設定する。時間の都合上難しい場合は、深まっている生徒の考えや意見を教員側から紹介する。</li> <li>・ 合唱は2年生までに学んだ積み上げを生かし、合唱コンクール前の合唱の時間に、発声方法に関しては全体指導を行い、発達段階に応じて個別指導を適宜行っていく。</li> </ul>



		指導方法の課題分析	具体的な授業改善策
美 術	一 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題に対して意欲をもって取り組んでいるが、作品制作に対しての苦手意識を取り除くことや、制作の進み具合が遅れてしまう生徒への支援が必要である。</li> <li>・作品制作の手順や技法についての説明などの理解に差が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実物投影機やスライドなどを活用し、基礎・基本の知識を視覚的に分かりやすく理解させ、基本的なテクニックがしっかり身に付くよう指導・支援する。</li> <li>・課題ごとに関心をもって授業を受けられるよう指導する。制作を通し、表現することの楽しさを知らせる。</li> <li>・道具の準備と片付けの徹底化を図る。</li> <li>・自分の意図にあったテクニックなどの個別指導を行い、生徒が自分なりに満足できる作品の完成を目指す。</li> </ul>
	二 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題に対して意欲をもって取り組んでいるが、課題によっては苦手意識をもってしまう者もいる。</li> <li>・どの分野でもそれぞれの個性を生かせるような課題設定および説明が必要である。</li> <li>・制作の手順や技法についての説明などの理解に差が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT 機器を活用し、視覚的に分かりやすい指導を心掛ける。</li> <li>・学んだ知識や技法を生かし、考えや意図を表現できるようアドバイスするとともに、参考になる作品などを提示し、目標や意欲をもって製作できるよう指導する。</li> <li>・制作の喜びを味わえるよう、個に応じたアドバイスを行い、完成のためのプロセスを十分考え制作できるよう指導・支援を行う。</li> <li>・道具の準備と片付けの徹底化を図る。</li> </ul>
	三 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら進んで自己表現を行う意欲を見せる者と、課題によって苦手意識をもつ者との差が見られる。</li> <li>・作品制作に対して積極的に取り組むことができるような課題設定や説明の工夫が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT 機器を活用し、視覚的に分かりやすい指導を心掛ける。</li> <li>・表現の工夫ができるよう、個にあった技法等を指導し、より主体的に制作ができるよう支援する。</li> <li>・自分の感想や印象などを言語化できるよう指導する。</li> <li>・制作過程で個に応じたアドバイスを行い、表現の幅が広がるように指導する。</li> <li>・道具の準備と片付けの徹底化を図る。</li> </ul>

		指導方法の課題分析	具体的な授業改善策
保 体	一 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>初めての授業で不安な気持ちに寄り添う必要がある。オリエンテーションを充実させ、少しでも取組に対する安心感をもたせる。</li> <li>授業開始から終了までの一連の流れを身に付けることにより、見通しをもって活動ができるようにする。安心感をもちながら授業に参加するように促す。</li> <li>体幹を意識した基礎的な体力向上を図る。</li> <li>集団の一員として行動することの意味を理解し、集団行動の必要性と徹底を図る。</li> <li>東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査結果を分析し、自校の実態に即した能力の向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>挨拶、集団行動を確実に身に付ける。</li> <li>生徒同士が互いに教え高め合う機会を設ける。</li> <li>領域に即した補助的な運動を取り入れ、特性に合わせた運動感覚を養う。</li> <li>体づくり運動でのペア活動を増やし、他者と協働する機会を設ける。</li> <li>生徒間での「教え合い」を通して、言語活動を充実させる。</li> <li>男女共習を計画的に設け、男女共同、協働の精神を養う活動を行う。</li> <li>東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査結果を分析し、本校生徒の実態や課題に即した指導を取り入れる。</li> <li>単元ごとに一回はタブレットを使用し、自分自身の課題を見付け、動きの改善を図る。</li> </ul>
	二 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動に対する興味、関心は高く、意欲的に取り組む生徒が非常に多い。生涯スポーツに繋げる為にも伸ばしたい資質である。</li> <li>種目によって異なる基礎的、基本的な動きを正確に身に付ける。</li> <li>運動の苦手な生徒に対する個別指導が必要。</li> <li>保健分野、体育理論を通し、自らの健康を保持増進し、運動の学び方や関わり方についての資質能力を高めていく。</li> <li>東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査結果を分析し、自校の実態に即した能力の向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「分かる」から「できる」までの反復練習の時間を設けることで「できるようになる」喜びを味わわせる。</li> <li>ペア学習で反復練習、グループ学習での教え合いを基本とした授業を展開する。</li> <li>習熟度別のグループ学習を行うことで個別指導の機会を設ける。</li> <li>学び得た知識を実生活でどう活用するか [考える保健、考える体育理論]を展開する。</li> <li>東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査結果を分析し、本校生徒の実態や課題に即した指導を取り入れる。</li> <li>単元ごとに一回はタブレットを使用し、自分自身の課題を見付け、動きの改善を図る。</li> </ul>
	三 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動の好き嫌いの二極化が顕著になっている。生涯スポーツの観点から苦手な生徒への個別指導が必要。</li> <li>1. 2年で身に付けた能力を生かし、自分たちで考え、課題に応じた作戦や練習方法の工夫ができるようにする。</li> <li>保健分野、体育理論を通し、生涯に渡って健康の保持増進に努め、自ら運動に親しんでいく資質能力を高めていく。</li> <li>東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査結果を分析し、自分の体力、能力を理解し、各能力の伸長を促していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>習熟度別グループを作り、苦手な生徒への個別対応を充実させ、スモールステップの課題を設定し「できる」楽しさを実感させる。</li> <li>作戦やアドバイスの機会を増やし、話し合い活動を通して思考力を高める。</li> <li>5年後10年後の未来の自分を想像させ、保健活動と運動との関わり、生涯スポーツの大切さ、必要性について考えさせていく。</li> <li>東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査結果を分析し、本校生徒の実態や課題に即した指導を取り入れる。</li> <li>単元ごとに一回はタブレットを使用し、自分自身の課題を見付け、動きの改善を図る。</li> </ul>

		指導方法の課題分析	具体的な授業改善策
技 術	一年	<ul style="list-style-type: none"> <li>多くの生徒が意欲的に取り組んでいる。実技作業の時間においては集中して取り組んでいる生徒が多いが、座学において意欲や理解力に欠ける生徒がいる。遅れがちな生徒への適切な対応が必要である。</li> <li>日常生活で工具を使用したことのない生徒が多いため、間違った使用方法で作業している生徒が見受けられる。視覚教材や、実演を行い実際に正しい工具の使用方法を学ばせる必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自力で解決できない生徒へは、問題解決のステップを示し、個別指導を行う。</li> <li>小テストを実施して、単元毎の理解力の向上を図る。</li> <li>体験的活動を取り入れ理解力・意欲の向上を図る。</li> <li>工具や機械を使用する際には、教員が実演を行い、正しい使用方法を理解させる。</li> </ul>
	二年	<ul style="list-style-type: none"> <li>栽培分野においては、観察・記録の方法を学ばせる。</li> <li>観察・記録から、考察をさせ問題解決の力を身に付けさせる</li> <li>エネルギー変換、電気回路など身近に存在する技術について考えさせる。また、持続可能な社会の実現のために日々技術が進歩し、日常生活に生かしていくことを認識させる。</li> <li>実際に電気回路の製作を進めていく中で、実技の進捗に差が出てしまうので個々に対応した指導を進めていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>スライドを利用した授業を行い、授業内容や作業内容を分かりやすく伝える。</li> <li>栽培の記録については、記録するポイントを実際に描き、どの点に注意して記録するかを学ばせる</li> <li>身の回りにある物を例に挙げ、身近にエネルギー変換が行われていることを確認する。</li> <li>実物投影機等を使用し、視覚的にも分かりやすくなる工夫を行う。</li> <li>遅れがちな生徒に対しては、個別の指導を強化する。進み具合の速い生徒へはチームティーチングにチャレンジさせ双方の力の向上に努める。</li> </ul>
	三年	<ul style="list-style-type: none"> <li>金属加工という通常では体験できない内容であったこともあり、ほとんどの生徒が授業に意欲的に取り組んでいる。細かな作業については個人差が見られるので個々に対応した指導が必要である。授業で学んだ内容を定着させるための工夫が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>遅れがちな生徒に対しては、個別の指導を強化する。進度に遅れのある生徒は休み時間などに個別指導するなどして理解できるようにする。</li> <li>研磨作業のやり方を、こまめに確認し、金属光沢がでるようにする。</li> </ul>

		指導方法の課題分析	具体的な授業改善策
家 庭	一年	<ul style="list-style-type: none"> <li>ほとんどの生徒が意欲的に取り組んでいるが座学において意欲や理解力に欠ける生徒がいる。遅れがちな生徒への適切な対応が必要である。</li> <li>技能については基本的事項を習得している生徒が多いが、苦手な生徒も何人か見られるので、補充的な指導を続けていく必要がある。</li> <li>家庭生活での体験が少ない生徒がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小テストを実施して、単元ごとの理解力の向上を図る。</li> <li>ICT 機器を活用し、視覚的に分かりやすい指導を心掛け、授業内容や作業内容を分かりやすくする。</li> <li>作業が能率的に進められる題材を選ぶことにより、体験不足や個人差を補う。</li> <li>実践的、体験的な学習の場をできる限り取り入れていく。</li> <li>生徒が自分の生活に結び付けて学習を進めていけるような問題解決型の学習を取り入れよう工夫する。</li> </ul>
	二年	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業への取組は意欲的である。技能面での個人差が大きく作業が遅れがちになる生徒が何人かいるので、補充的な指導の時間を授業外に設けて技能面の充実を図る必要がある。</li> <li>作品の製作に関しては、個人差がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体験的な活動の場面を多く取り入れるよう工夫する。</li> <li>作業が能率的に進められる題材を選ぶことにより、体験不足や個人差を補う。</li> <li>技能に応じた問題解決学習の場面を取り入れるよう工夫する。</li> <li>放課後や夏休みの補習をし、遅れている生徒に対して個別指導を行うとともに、意欲のある生徒に関しては、より高度の工夫ができるよう、アドバイスをする。</li> </ul>
	三年	<ul style="list-style-type: none"> <li>多くの生徒が授業に意欲的に取り組んでいるが、授業時数が少ない。</li> <li>導入の段階を工夫して生徒の興味を喚起し、知識・技能の定着を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>多くの生徒が授業に意欲的に取り組んでいるが、授業時数が少ないので、授業内容を厳選して進める。</li> <li>導入の段階を工夫して生徒の興味を喚起し、知識・技能の定着を図る。</li> </ul>

